

## プログラミング 児童ら発想競う

### 仙台・大会入賞者発表

「みんなのみらい」をテーマに製作したアプリなどを競う県小学生プログラミング大会（河北新報社、東北工大など主催）が19日、仙台市太白区の東北工大八木山キャンパスであった。最優秀賞に美里町青生小5年常見胡桃さん（11）、大崎市古川第一小5年佐々木望翔さん（10）、同市古川第三小5年伊藤俊亮君（10）のチーム「トリプルギアートルズ」が選ばれた。応募した47組のうち、事前審査を通過した12組が作品を発表。仙台市教委プロ



最優秀賞の表彰を受ける「トリプルギアートルズ」のメンバー

グラムミング教育推進アドバイザーの安藤明伸さんから5人が発想、表現、技術の観点から作品を審査した。

最優秀賞の「車の浸水被害を防ぐ『浸水ふせポン』」は、車に付けた超音波センサーが雨量を感じし、浸水の可能性を持ち主に知らせる装置。7月の記録的大雨を受け着想したという。

チームは来年3月、東京で開かれる全国選抜小学生

プログラミング大会に出場する。常見さんは「1位を目指していたのでうれしい。実用性を高め、全国大会で優勝したい」と話す。他の入賞者は次の通り。

（敬称略）

▽優秀賞 鈴木佐保（聖ドミニコ学院小4年）▽優良賞 杉原颯（仙台市上野山小6年）▽審査員特別賞 佐藤鏡介（同八木山小6年）石川颯亮（同中田小6年）